

I キャリア教育で子どもが変わる！学校が変わる！地域が変わる！

子どもが変わる！

自分を見つめ、生き方を考える

「私は学校を休んでいたもので、この体験に参加するのが嫌でした。実習中、保育園の先生はすごく優しく、どんなささいなことも丁寧に教えてくれました。だから、つらいということはありませんでした。『参加できて良かった。』と心の底からそう思えた実習最終日。この体験で子どもたちや先生方から勇気もらい、今では学校にも通えるようになりました。」・・・

この職場体験学習をきっかけに、Aさんは自分にもできるんだと自分に自信をもつことができ、次第に変わっていきました。このように、地域社会での様々な体験活動や人々との触れ合いの中で、子どもたちは自分を見つめ、将来の夢や目標を考え始め、自分の在り方、生き方を考えていくようになります。

子どもが変わる！

学ぶ意欲が高まる

将来への夢や目標をもった子どもたちは、「前向きな自分」に変わっていきます。そして、自分の将来の夢や目標に近づくために、今しっかり勉強することが大切であり、学校生活を充実させようとするようになります。さらには、「〇〇になるにはどういう勉強が必要か。どのような力を身に付けなくてはならないか」と考え、「今学んでいることが将来にどうつながっていくのか」という、学ぶことの意味を理解します。自ら学ぼうとする気持ちをもった子どもたちは、意欲的に学ぶようになります。このようにして子どもたちは、自らの進路を決定する際にも、将来の目標やはっきりした目的意識をもって進路を選択していきます。

学校が変わる！

キャリア教育は学校を変える

子どもたちに自らの在り方、生き方を考えさせるキャリア教育を柱に据えたある学校では、まず、今ある活動をキャリア教育の視点から見直しました。その中で、子どもたちの意見を生かした学年や学校行事の企画・運営を重点に取り組みました。

子どもたちは自分の意見や考え、思いを仲間と語りあい、時にはぶつけ合いながらどうするのかを決め、自分たちで決めたことは自分たちで守って実行し、それぞれの行事を成功させていく体験の中で、仲間と深くつながっていきました。

達成感ややればできるという自信、仲間とのつながりをもった子どもたちは、自分を、そして仲間を大切にするようになり、クラスが、学年が、学校全体が変わっていきました。

地域が変わる！

地域を担う子どもは地域で育つ

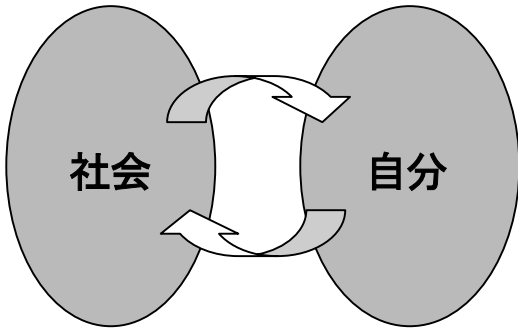
地域社会での様々な体験活動や人々との触れ合いは、子どもたちの心に感動を与え、いつまでも心に残ります。その中で子どもたちは自分を振り返り、自分を見つめ、自分の生き方を考えます。このように子どもたちは地域社会とのかかわりの中で育っていきます。

一方、地域の子どもたちとのかかわりを通して、地域の大人の中にも「地域の子どもたちは地域で育てる」という気運が高まり、子どもたちや地域への理解が深まります。地域の大人と子どもたちの交流により、地域は活性化していきます。

自分の住んでいる地域の「ひと・もの・こと」について学び、そのよさを知った子どもたちは、ふるさとを大切にします。地域を担い、世界に通用できる若い人材を育てていくことは、地域の将来の発展にもつながります。

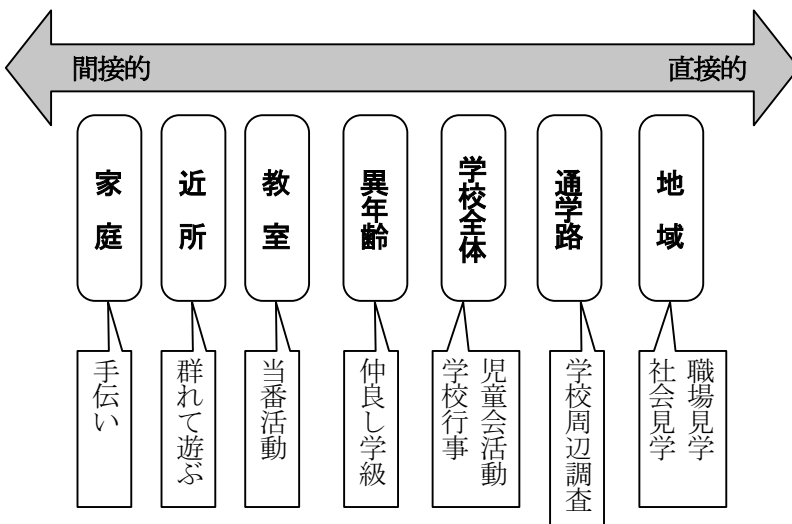
Ⅱ 学びを深めるためのポイント

1 発達段階を考慮したキャリア教育



キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程です。
 幼保 → 小 → 中 → 高 という発達過程を考えると、
 身の回りのことに関心を高める → 対象や場を広げる
 間接的なかかわり → 直接的なかかわり
 のように、発達段階を考慮して学習を仕組んでいくことが重要です。

2 社会との間接的なかかわりと直接的なかかわり

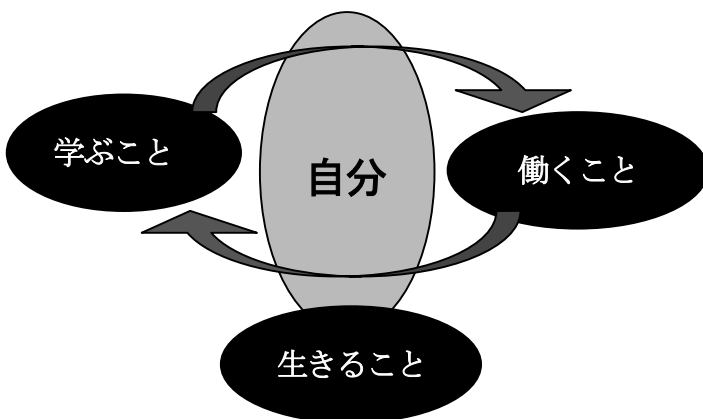


キャリアとは、自分と働くこととの関係づけや価値付けの累積です。子どもたちは、家庭や教室といった身近な社会から、徐々に広い社会を体験していきます。家庭では家庭で、教室では教室で、失敗を経験しながら、自分の役割を果たす喜びを味わわせていくことが重要です。

そして、左図のようなさまざまな体験を関連づけたり、自分の役割を果たすことを価値づけたりするための支援をしていくことがキャリア教育なのです。

左図は小学校段階を示していますが、中学校、高校でも考え方は同じです。

3 自分を見つめ、生きることを考えるキャリア教育



キャリア教育は、自分が自分として生きていくために、学びつづけたい、働きつづけたいと強く願い、それを実現していくような人間を育成することが目標です。ですから、働くことや学ぶことを通して自分を見つめ、生きることを考えていくような学習をする必要があります。

イベント的に体験活動を行うだけでは、子どもたちは自分と向き合うことはしません。教師の適切な働きかけが重要なのです。

Ⅲ 各学年におけるキャリア発達課題と大切にしたい活動

